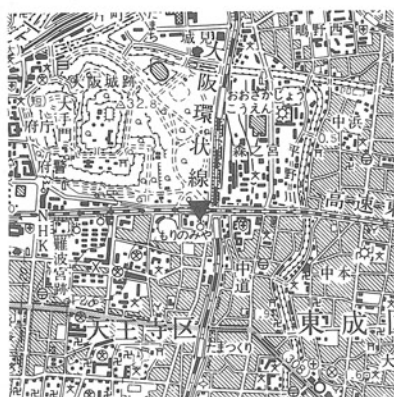




(大阪東北部)

大阪・森の宮遺跡

1 所在地 大阪市中央区森ノ宮中央

2 調査期間 一九九五年(平7)二月～六月

3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会

4 調査担当者 小田木富慈美・平田洋司

5 遺跡の種類 貝塚・集落・水田跡

6 遺跡の年代 縄文時代中期～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

森の宮遺跡は上町台地の東縁に位置し、縄文時代後期～弥生時代中期の西日本でも有数の規模をもつ貝塚として知られている。

今回の調査地は縄文時代には河内湾、河内潟の内部であり、土器とともに竖櫛や蔓を巻き付けた石錘など珍しい遺物が出土している。飛鳥時代にも低湿地で、居住に関わる遺構はなく、自然に形成されたと推定される溝が検出されたのみで

ある。木簡(1)～(3)はこの溝から出土した。七世紀後半～末の土師器・須恵器のほか、斎串・舟形などの多量の木製品や馬・牛などの獣骨も多数出土し、西に位置する前期難波宮との関連も注目される。中世以降も低湿な場所であり、耕作地として利用されている。木簡(4)は石山本願寺期の導水用と推定される溝から見つかった。共伴遺物には少量の青花・土師皿がある程度である。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「<米入 (65)×26×4 039

(2) 「<□□粟 (97)×20×3 039

(3) 「<□宅□ (132)×23×5 039

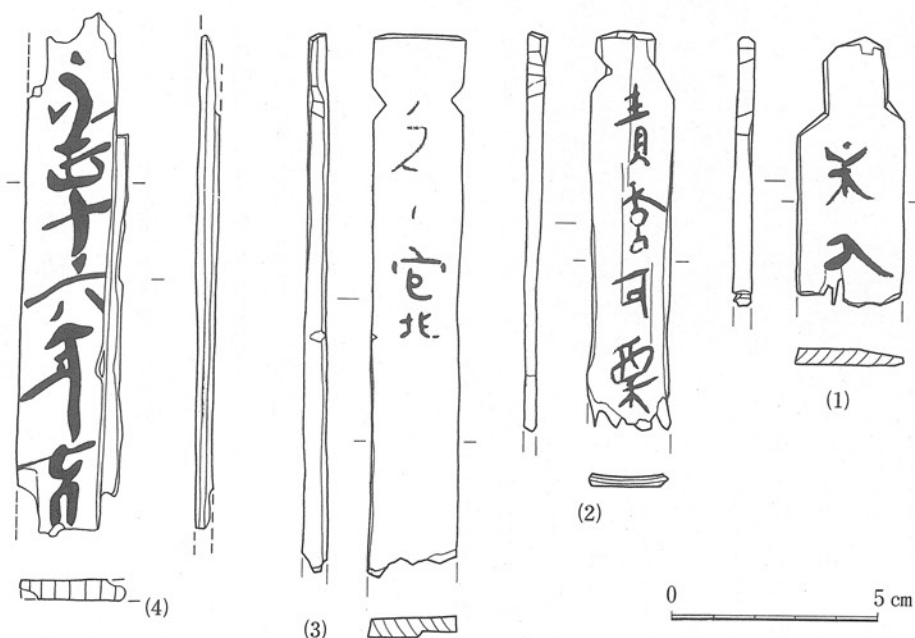
(4) 永正十六年七月 (127)×23×4 081

(1)～(3)は墨が薄く、肉眼では判読できない。(2)の一字目は「責」、三字目は「可」のようにも見えるが、意味も通じず、不明である。(3)は「宅」とした文字の前にも墨の付着が見られるが、文字かどうかもわからない。(4)の永正一十六年は一五一九年にあたる。本願寺が大坂に移される直前の年代である。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『森の宮遺跡Ⅱ』(一九九六年)

(平田洋司)



大阪・長原遺跡

- 1 所在地 大阪市平野区長吉長原
- 2 調査期間 一九九二年（平4）四月
- 3 発掘機関 (財)大阪文化財協会
- 4 調査担当者 清水和明
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 後期旧石器時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東南部)

長原遺跡は河内台地の北端部、「瓜破台地」と呼称される台地から平野部に移行する位置に広がり、旧大和川水系や羽曳野丘陵から北流する旧東除川などが造りだした複雑な地形を内包している。発見された遺構・遺物は、低位段丘層に包含される後期旧石器（平安神宮火山降灰以前）まで溯ることができる。長原遺跡の調査は、(財)大阪文化財センターや長原遺跡調査会